

胎内市立乙中学校



学校データ

【学級数】

4学級

【児童生徒数】

71人

【地域コーディネーター
の有無】

有

本物に触れて感性を磨く ～ 胎内・乙の「ひと・もの・こと」を生かした取組～

1 はじめに

地域には教室では学べないことがたくさんある。地域に飛び込み、本物に触れることで、生徒は感性を磨くことができる。また、多くの地域の人との出会いや地域での体験活動は、知識や技能の獲得だけでなく、これからの人生を豊かにする貴重な財産となる。

当校は、一小一中の中学校区であり、小中学校が連携して、9年間を見通したキャリア教育「きのとっ子プラン」を作成し、総合的な学習の時間を中核として地域教育プログラムに取り組んでいる。

地域の自然や歴史、文化等を学び、地域に出て体験活動やボランティア活動を行い、生き方のモデルとなる様々な大人と出会うことで、郷土を愛し、誇りに思う生徒の育成に努めている。

2 取組の実際

当校では、より豊かな学びの成果を得るために、学校と地域が連携・協働して様々な生徒の学びの場を創っている。ここでは、当校の地域の特性を生かした取組をいくつか紹介する。

(1) 自然体験（新潟県少年自然の家）

① カヌー体験

中学生のカヌー体験実施は県内では当校が唯一であり、ふるさとの山を背景に、校区内で貴重な体験をすることができ

る。地元の県少年自然の家の職員から、中学生に合わせたメニューを組んでもらい生徒たちは大満足であった。

② スノーシュー体験

県少年自然の家の職員と、胎内市在住の森林インストラクターを外部指導者に招き、胎内高原ゴルフ倶楽部の美しい景色の中でスノーシュー体験を行っている。前日からの降雪で新雪に恵まれたり、小動物との出会いがあったりと、たくさんの感動に包まれた。



「雪の感触がふわふわしていた。自然と触れ合える珍しい体験ができたので、またやってみたい。」という感想からも、生徒は胎内の恵まれた自然を満喫したようであった。

(2) 芸術鑑賞（胎内市美術館）

毎年実施している市美術館での芸術鑑賞では、主に胎内市にゆかりがある作品を鑑賞させてもらっている。

今年は、胎内市在住の陶芸家の方から、これからの時代を担う中学生に対する期待を込めながら、作品の意図について熱く語ってもらった。

この方の作品は、きのと小学校の児童

玄関前にも展示してある。また、生徒は小学校時代に陶芸教室で指導してもらった経験があり、生徒にとって身近な芸術家でもある。



陶芸の伝統とモダンなスタイルの融合が世界の人々を魅了していることを知り、生徒は興味津々で話を聞きながら、郷土の芸術家に対する誇りを深めているようであった。

(3) 奉仕活動（地域貢献活動）

① 松葉かき

県少年自然の家での松葉かきをきのと小学校4年生と一緒にやっている。奉仕の心、人と人の温かい人間関係の醸成を目的に、中学生が小学生をリードしながら進めている。施設を利用する多くの人が気持ちよく使えることを願い、さわやかな汗を流すことができた。

② 清掃活動

地元の名刹「乙宝寺」で清掃活動を行っている。乙宝寺は、平安時代の「今昔物語集」にも登場する由緒ある寺院である。生徒は「掃除も修行の一つ。身の回りをきれいにすると心もきれいになる」という住職様の言葉を受け止め、約2時間、黙々と寺院や境内の清掃に取り組んだ。



「いつもお世話になっている場所なので、役に立つことができてうれしい。」「大変だったけど、楽しかった。あらた

めて掃除の大切さに気付くことができた。」という感想から、生徒の達成感や充実感を伺うことができた。

3 成果と課題及び本実践で育成された資質・能力

当校の地域教育プログラムのねらいは、将来的に地域に貢献できる人材の育成にある。取組の成果について、活動ごとの振り返りとともに、全国学力・学習状況生徒質問用紙で検証している。

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」

【当てはまる 52.9% (当校) 21.0% (全国)】

○「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」

【当てはまる 23.5% (当校) 11.5% (全国)】

平成31年度調査結果より

生徒は様々な活動を通して、胎内の豊かな自然や歴史、文化等を再発見し、郷土愛を強くするとともに、地域を深く理解し地域の人と共に活動しようとする意欲が湧いている。

今後は、目指す子どもの姿を明らかにし、これまで実施した地域教育プログラムの成果と課題を検証しながら、教科等で身に付けた資質・能力を総合的な学習の時間で活用することによって、確実に「生きた力」としてはたらかせることできる教育課程を編成しなければならない。

4 おわりに

来年度のコミュニティ・スクールの本格実施に向けて準備を進めている。コミュニティ・スクールは地域の宝である子どもたちをより良く育てるための仕組みである。地域と目指す子どもの姿を共有し、フェイス to フェイスで本音を語り合い、地域と学校が「ONE TEAM」となって生徒を育む学校でありたい。